

概要報告

実施期日	7月28日(火)【午後】
部会名	小学校 道徳部会

テーマ

『豊かな人間性をはぐくむ道徳の授業』
～誠実な心を養う魅力ある授業をめざして（家庭との連携）～

提案概要

児童の実態として、明るく、意欲的で人なつっこいが、誠実さや責任ある行動をとることが苦手なところがあった。真心（誠実な心）を持って人と接する良さに気づき、普段の生活の中で言葉や行動で示していけるきっかけになる授業を作りたいと思った。

また、学校の実態として、共働きの保護者が多く、家庭と児童の関わりの不足が感じられることがあり、今回の授業を、家庭と連携し、家庭と一体となっていくことはできないかと考え、実践したことの報告である。

〈成果〉

- ・事前アンケートで、児童の認識や実態を捉えることで、その後の授業展開を考えることができ、振り返りにも使うことができた。
- ・児童がお互いのワークシートを見合い、コメントを書きあうことによって、自分の考えを友だちに認めてもらえたり、友だちの意見の良さに気付いたりすることができた。
- ・保護者にも保護者自身の様々な体験や考えなどをワークシートに書いてもらったことにより、子どもたちの考えの補充・深化・統合に資することができた。
- ・児童や保護者の体験や考えなどを学級通信に載せることにより、学校での学習や様々な考え方をそれぞれの家庭で共有することができた。

〈課題〉

- ・「誠実」という価値観が捉えづらかった。「思いやり」と混同、あるいは不可分のところがあり、ねらいを絞るのが難しかった。
- ・授業に用いた「本屋のお姉さん」の資料は、児童の実態、あるいは実体験からは少し遠いものだったかもしれない。
- ・「誠実カード」の活用は、児童によっては「書いてもらうこと」が目的となってしまう、見返りのために行動している部分が見られた。

質疑概要

質疑については以下の3点が中心となった。

- ① 児童の行動に対し、ごほうび（見返り）を与えるのは良いか、悪いか。
- ② 「誠実」とはどういうことなのか。
- ③ 地域社会というものに対し、学校が関わっていくことができるのか。

応答、意見交換については以下のとおりである。

- ① 低学年の児童に対しては、行動の動機づけとしては有効だと思うが、いつまでもその状態が継続するのは好ましくない。いずれは見返りを離れ、道徳的価値によって行動できるようにさせたい。
- ② 「誠実」には、自分自身に対してのものと他者に対してのものがある。捉え方が難しい価値観なので、ねらいをしっかりと決め、考えるポイントがずれないように学習を構築していかなければいけない。
- ③ 地域社会の在り方は、それぞれの地域によって異なる。昔から地域としての在り方が確立しているところに学校が関わっていくことは難しい部分もある。反対に、新興住宅地など、地域としての在り方が不確立の地域については、学校も率先して地域の行事などに関わり、共に地域社会の形成や確立に向かっていけるとよい。

研究協議概要

〈協議の柱〉 『ねらいとする価値観（誠実）にせまる授業展開の工夫』
（教材「本屋のお姉さん」を使用した授業展開等の工夫等も含む）

〈協議の方法〉

参加者を6グループに分け、協議の柱を中心に、本教材を使った授業展開の工夫等も交えて話し合いを行った。各グループ5人程度。最後に全体発表を行い、グループ協議での話題を共有した。

〈全体発表の概要〉

- ・授業後がとても大切。「誠実」とは「第三者が誠実だと認めてくれる行動」であるということを説話なり、何かで伝えていく手もある。
- ・小さなことでもほめていくことが大切だと思う。
- ・お姉さんの他の行動（本を届ける以外）にも着目し、お姉さんの誠実さに焦点を当てる方法もある。
- ・登場人物になってロールプレイングしてみる。ぼく、お姉さんだけでなく、おじさんなども含めて。
- ・「誠実」とは何か。価値観提示が難しい。
- ・お姉さんのどんな行動で、「ぼく」の心は動いたかを考えさせる。
- ・お互いの考えを聞きあうことが大切。
- ・「迷う」という選択肢もあってよいと思う。
- ・「お姉さんから誠実な対応をしてもらったぼく」の気持ちを考えてみる展開はどうか。
- ・教師が教えるところ、子どもが考えるところのバランスが難しく、大切だと思う。
- ・誠実な行動、誠実ではない行動を子どもたちから出させる。
- ・お姉さんの台詞を隠し、どんな言葉が入るか考えさせる。
- ・ぼくの気持ちを考えさせる方法もある。
- ・誠実は漠然としているので、「がんばってる場所」と言い換えて解釈させてみてはどうか。
- ・授業後、「これから自分にできること」を考えさせることが大切。
- ・「一歩踏み出す勇気」（実際に行動にうつせる気持ち）を与える活動を考える。

まとめ概要

- ・価値項目の重なりが起りやすい。そのとき必要なことや着目させたい部分を焦点化して、考える価値項目を絞る必要がある。
- ・年齢を重ねていくごとに、人が見ている、見ていなくても、見返りがあるとなかろうと、行動していくことができるよう育てていく。
- ・道徳授業は1時間完結でなくてよい。
- ・道徳と教科の関連を道徳全体計画の「別葉」として作成しておく、意図的・計画的に授業を運びやすい。
- ・道徳は児童指導とは異なり、内面的資質の育成がねらいであるので、即効性を求める授業や見方をしなくてよい。
- ・今回行ったグループワークの提案は、教材研究の一つの方法として役立ててほしい。
- ・子どもが考える授業、言語活動が活発になる授業が道徳には求められている。
- ・提案の実践報告には、考える授業をつくるための有効な手だてが示されている。
- ・提案を受けて、「自分たちにできること」を考えていってほしい。